

整理番号	トイレリナー 800ml×12/CS	作成日	2007年1月22日
3399-02	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年2月13日

Ver. 11.08

## 安全データシート (SDS)

### 1. 製品及び会社情報

製品名	トイレリナー 800ml×12/CS
製品コード	3399
会社名	横浜油脂工業株式会社
住所	横浜市西区南浅間町 1 - 1
担当部門	技術開発部
担当者	伊藤 慶
電話番号	045-311-4701
FAX番号	0463-89-1330
緊急連絡の電話番号	045-311-4704
奨励用途及び使用上の制限	トイレの便器、洗面所の陶器、タイルなどの洗浄
作成日	2007年1月22日
改正日	2016年2月13日
整理番号	3399-02

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

金属腐食性物質	区分 1
急性毒性（吸入）	区分 4
皮膚腐食性／刺激性	区分 1
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 1
呼吸器感作性	区分 1
特定標的臓器毒性（単回暴露）	区分 1
特定標的臓器毒性（反復暴露）	区分 1
水生環境有害性（急性）	区分 1

※記載のないものは区分外、分類対象外または分類出来ない

#### GHSラベル要素

##### シンボル



##### 注意喚起語

危険

整理番号	トイレクリナー 800ml×12/CS	作成日	2007年1月22日
3399-02	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年2月13日

Ver. 11.08

### 危険有害性情報

金属腐食のおそれ  
 吸入すると有害  
 重篤な皮膚の薬傷・目の損傷  
 重篤な眼の損傷  
 吸入するとアレルギー、喘息または、呼吸困難を起こすおそれ  
 呼吸器系の障害  
 長期にわたる、または反復暴露による歯、呼吸器系の障害  
 水生生物に非常に強い毒性

### 3. 組成、成分情報

#### 化学物質 ・ 混合物の区別

・ 混合物

成分名／化学名	含有量 (wt%)	CAS No.	化審法
塩化水素	9.4	7647-01-0	(1)-215
非イオン系界面活性剤	1~5	非公開	非公開
グリコール系溶剤	0.5~3.0	非公開	非公開
増粘剤	0.2~3.0	非公開	非公開
キレート剤	0.2~3.0	非公開	非公開
香料	微量	非公開	非公開
色素	微量	非公開	非公開
水	残量	7732-18-5	—

#### PRTR法報告物質

非該当 該当物質は含有しない。

#### 毒物及び劇物取締法

非該当 該当物質は含有するが、規定量以下のため非該当。

#### 労働安全衛生法

通知物質：法第57条の2、施行令18条の2別表第9 名称等を通知すべき有害物質

制令番号 物質名	含有量
98 塩化水素	9.4%

#### 有機溶剤中毒予防規則

非該当 該当物質は含有しない。

整理番号	トイレクリーナー 800ml×12/CS	作成日	2007年1月22日
3399-02	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年2月13日

Ver. 11. 08

#### 4. 応急処置

##### 大量に吸入した場合

- ・吸入をして気分の悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・気分の戻らない時は、医師の診断を受けること。
- ・呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡すること。
- ・呼吸していて嘔吐がある場合は頭を横向きにする。
- ・呼吸が弱い場合は人工呼吸や酸素吸入を行う。
- ・吸入の影響が遅れて現れることがある。
- ・上記症状が出た場合、直ちに医師の診断を受けること。

##### 皮膚に付着した場合

- ・直ちに水で洗い流し、石鹼で液が付着した部分をよく洗うこと。
- ・汚染した衣類を再使用する場合は洗濯してから使用すること。
- ・直ちに、汚染された衣類をすべて取り除くこと。皮膚を流水で洗うこと。
- ・水で洗浄したのちに衣類が皮膚に張りついている場合は、無理にはがしてはならない。
- ・洗浄を始めるのが遅れたり、不十分だと皮膚障害を生ずるおそれがある。
- ・直ちに医師の診断を受けること。

##### 目に入った場合

- ・清浄な水で最低15分間目を洗浄する。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。
- ・コンタクトレンズを使用している場合は、固着していないかぎり、取り除いて洗浄を続ける。
- ・洗浄後、医師の診断を受けること。
- ・激しい痛みがある場合は、直ちに医師の診断を受けること。
- ・洗浄を始めるのが遅れたり、不十分であると不可逆的な眼の障害を生ずるおそれがある。

##### 飲み込んだ場合

- ・直ちに水で口の中を洗浄する。
- ・直ちに医師の診断を受けること。
- ・無理に吐かせないこと。
- ・腐食性の製品なので、吐き出させるとかえって危険が増す。直ちに医療措置を受ける手配をする。
- ・子供などが飲み込んだ懸念がある場合、直ちに医師の診断を受けること。
- ・必要に応じて、人工呼吸や酸素吸入を行う。

##### 最も重要な兆候及び症状

- ・特になし

##### 応急措置をする者の保護

- ・特になし

##### 医師に対する特別注意事項

- ・特になし

整理番号	トイクリナー 800ml×12/CS	作成日	2007年1月22日
3399-02	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年2月13日

Ver. 11.08

## 5. 火災時の措置

### 消火剤

- ・この製品自体は、燃焼しない。

### 使ってはならない消火剤

- ・冷却の目的で霧状水は用いてもよいが、消火に棒状水を用いてはならない。

### 火災時の特有の危険有害性

- ・火災により、刺激、腐食性が強い塩化水素ガスが発生する恐れがある。

### 特有の消火方法

- ・消火作業は、可能な限り風上から行なう。
- ・関係者以外は安全な場所に退去させる。
- ・周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・周囲の設備などの輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。
- ・消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

### 消火を行う者の保護

- ・消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。
- ・消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

---

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
- ・漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。
- ・漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する
- ・作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。
- ・風上から作業し、風下の人を退避させる。
- ・着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
- ・こぼれた場所はすべりやすいために注意する。
- ・作業の際には保護具(必要に応じてガスマスク)を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。
- ・多量の場合、人を安全に待避させる。

### 環境に対する注意事項

- ・流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

整理番号	トイレクリーナー 800ml×12/CS	作成日	2007年1月22日
3399-02	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年2月13日

Ver. 11.08

## 封じ込め及び浄化の方法及び機材

### 回収、中和

- ・少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取り、密閉できる空容器に回収する。
- ・大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。
- ・本製品は強酸なので、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理するか、または徐々に注水してある程度希釈した後、必要があれば消石灰、ソーダ灰等で中和する。下水溝、表流水、地下水に流してはいけない。
- ・回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。
- ・付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。

### 二次災害の防止法

- ・漏出時は事故の未然防止および拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

- ・製品記載の使用上の注意を良く読み、用途以外に使用しないこと。
- ・酸性なので、アルカリ性の製品との接触を避ける。
- ・粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・取扱いは、屋外または換気のよい場所で行う。
- ・取り扱い中は、飲食、喫煙を行ってはならない。
- ・他の容器に移し替えしないこと。
- ・取り扱い後はよく手を洗うこと。

### 保管

#### 安全な保管条件

- ・製品記載の保管条件を読み、適切に保管すること。
- ・容器を密栓すること。
- ・日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。
- ・耐腐食性あるいは耐腐食性内張りのある容器に保管すること。
- ・施錠して保管すること。
- ・アルカリと一緒に保管してはならない。

#### 安全な容器包装材料

- ・軟鋼、銅、アルミニウム、亜鉛等、金属類には腐食性があるため、ポリエチレン容器に保管する。

整理番号	トイレクリナー 800ml×12/CS	作成日	2007年1月22日
3399-02	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年2月13日

Ver. 11.08

## 8. 暴露防止及び保護措置

### 設備対策

- ・ 蒸気または煙やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
- ・ 屋内で使用する場合は局所排気装置を設置する。

記載の無いもの、また「-」は、知見なし、あるいはデータなし

成分名／化学名	管理濃度	許容濃度
塩化水素	-	日本産業衛生学会 (2014) 暫定値 (最大許容濃度) 2ppm (3.0mg/m <sup>3</sup> ) ACGIH (2014) TWA-, STEL Ceiling 2ppm
非イオン系界面活性剤	-	-
グリコール系溶剤	-	-
増粘剤	-	OSHA PEL 15mg/m <sup>3</sup> (total dust) 8-hr TWA、 5mg/m <sup>3</sup> (respirable) 8-hr TWA
キレート剤	-	-
香料	-	-
色素	-	-
水	-	-

### 保護具

#### 呼吸器の保護具

- ・ 保護マスクを着用する。必要に応じて防塵マスク、防毒マスク、有機溶剤用の防毒マスク等を着用する。

#### 手の保護具

- ・ 保護手袋、必要に応じて耐溶剤性手袋、ビニール手袋等を着用する。

#### 目の保護具

- ・ 保護眼鏡 (普通眼鏡型)、必要に応じて、ゴーグル型、保護面等を着用する。

#### 皮膚及び身体の保護具

- ・ 保護衣、保護前掛け等を着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

外観	: 緑色液体
臭い	: 刺激臭
臭いのしきい値	: データなし
pH	: 1.0
融点/凝固点	: データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	: データなし
引火点	: なし
自然発火温度 (発火点)	: データなし
燃焼性 (固体、気体)	: データなし
燃焼又は爆発範囲下限、上限	: データなし
蒸気圧	: データなし

整理番号	トイレクリナー 800ml×12/CS	作成日	2007年1月22日
3399-02	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年2月13日

Ver. 11.08

蒸気密度	: データなし
蒸発速度	: データなし
比重	: 1.05
溶解性	: 水に溶解
オクタノール/水分配係数	: データなし
分解温度	: データなし
粘度 (粘性率)	: データなし
その他のデータ	: データなし

## 10. 安定性及び反応性

### 反応性

#### 化学的安定性

- ・ 通常の手扱いにおいては安定である。
- ・ 加熱により塩化水素ガスが発生する。

#### 危険有害反応性の可能性

- ・ 金属を侵して水素ガスが発生し、これが空気と混合し、引火源があると爆発の危険性がある。
- ・ 強アルカリと激しく反応し、発熱する。

#### 避けるべき条件

- ・ 熱、日光

#### 混触危険性物質

- ・ アルカリ性物質 (酸性物質のため、アルカリ性物質との接触を避けること。)
- ・ 金属、水反応可燃性物質

#### 危険有害な分解生成物

- ・ 塩素、塩化水素、水素

#### その他

- ・ 特になし

## 11. 有害性情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

### ・ 塩化水素

#### 《急性毒性》

経口：塩化水素のラット LD50=238~277mg/kg、700mg/kg(SIDS(2002))の記述がある。本品に対しては、混合物の成分に基づく分類(GHS文書3.1.3.6)を適用した結果(LD50=680~791mg/kg)から区分4とした。

経皮：塩化水素のウサギLD50>5010mg/kg(SIDS(2002))に基づき区分外とした

吸入(ガス)：情報なし

吸入(蒸気)：情報なし

吸入(粉じん・ミスト)：塩化水素のエアゾールのデータ、ラットLC50=1.68/L/1h(SIDS(2002))。この値の4時間値0.42mg/L/4hから求めた計算値がLC50=1.2mg/Lであることから区分4とした。

整理番号	トイレクリナー 800ml×12/CS	作成日	2007年1月22日
3399-02	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年2月13日

Ver. 11. 08

《皮膚腐食性/刺激性》

ウサギを用いた皮膚刺激性試験で1～4時間暴露により濃度次第で腐食性が認められていること(SIDS(2002))、マウスまたはラットに5～30分暴露により刺激性及び皮膚の変色を伴う潰瘍が起きていること(SIDS(2002))、またヒトでも軽度～重度の刺激性、潰瘍や薬傷を起こした報告もある(SIDS(2002))。以上より、本物質は腐食性を有すると考えられるので区分1とした。

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

眼の損傷・刺激性に関しては、すべて本物質の水溶液である塩酸暴露による結果が記載されている。塩酸の眼の損傷・刺激性試験について、ウサギを含め複数の動物実験の結果、眼に対する重度の刺激または損傷性、腐食性を示すとの記述あり(SIDS(2002))また、ヒトにおいても永続的な損傷や失明のおそれが記載されている(SIDS(2002))と、皮膚刺激性で区分1に分類されていることから、区分1とした。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性:日本職業・環境アレルギー学会特設委員会にて作成された職業性アレルギーの感作性化学物質のひとつとしてリストアップされているので区分1とした。なおヒトで塩化水素を含む清掃剤に暴露後気管支痙攣を起こし、1年度になお僅かの刺激により喘息様症状を呈したとの報告がある(ACGIH(2003))。皮膚感作性モルモットのMaximization TestおよびマウスのEar Swelling Testでの陰性結果(SIDS(2002))に加え、15人のヒトに感作誘導後10～14日に適用した試験において誰も陽性反応を示さなかった報告(SIDS(2002))があり、区分外とした。

《発がん性》

IARCによるGroup3(1992年)、ACGIHによるA4(2003年)の分類に基づき区分外とした。なお、ラットあるいはマウスの発がん性試験では発がん性を示唆する証拠はなく(SIDS(2002))、ヒトの免疫調査でも多くはがん発生と塩化水素学路との関係に否定的である(IARC54(1992),PATY(5th,2001))。

《生殖細胞変異原性》

in vivo試験のデータがないため、分類できないとした。なお、Ames試験では陰性、in vitro染色体異常試験では低pHに起因する偽陽性が得られている(SIDS(2002))。

《生殖毒性》

データはすべてラットまたはマウスの妊娠中に投与した試験であり、児動物の発生に及ぼす悪影響は認められていない。しかし、親動物の交配あるいは妊娠前投与による性機能または生殖機能に対する影響については不明であるので、データ不足のため分類できないとした。

《特定標的臓器毒性(単回暴露)》

ヒトで吸入暴露により呼吸困難、咽頭炎、気管支炎、気管支収縮、肺炎などの症状を呈し、上気道の浮腫、炎症、壊死、肺水腫が報告されている(DFGOTvol.6(1994),PATY(5th,2001),IARC54(1992),ACGIH(2003))。また、動物試験では粘膜壊死を伴う気管支炎、肺の浮腫、出血、血栓など、肺や気管支に形態的損傷を伴う毒性影響がガイダンス値の区分1の範囲で認められている(ACGIH(2003),SIDS(2002))。以上のヒトおよび動物の情報に基づき区分1(呼吸器系)とした。

《特定標的臓器毒性(反復暴露)》

ヒトの反復暴露を受け侵食による歯の損傷を訴える報告が複数あり(SIDS(2002),EHC 21(1982),DFGOTvol.6(1994),PATY(5th,2001))、更に慢性気管支炎の発生頻度増加も報告されている(DFGOTvol.6(1998))。これらの情報に基づき区分1(歯、呼吸器系)とした。

《吸引性呼吸器有害性》

塩酸(塩化水素水溶液)の蒸気に暴露したり、飲み込んだ塩酸を吸引した場合、塩酸を多量に吸引した場合には化学性肺炎、肺水腫を起こす可能性があることから区分1とした。

・ 非イオン系界面活性剤

《急性毒性》(経口): LD50 300～2,000mg/kg (ラット) [参考値]

(経皮): データなし。

(吸入:ガス): 分類対象外

(吸入:蒸気): データなし。

(吸入:粉塵、ミスト): データなし。

《皮膚腐食性/刺激性》 急性皮膚刺激性(Draize法、モルモット)  
無刺激性(100%、30%、10%)

《眼損傷性/刺激性》 眼に重度の障害を及ぼす危険性(ラビット、OECDガイドライン405) [参考値]

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》 データなし。

生殖細胞変異原性: データなし。

整理番号	トイクリナー 800ml × 12/CS	作成日	2007年1月22日
3399-02	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年2月13日

Ver. 11. 08

《発ガン性》データなし。  
IARC：リストアップされていない。  
日本産業衛生学会：リストアップされていない。

《生殖毒性》データなし。  
《特定標的臓器毒性－単回ばく露》  
：データなし。

《特定標的臓器毒性－反復ばく露》  
：データなし。

《吸引力呼吸器有害性》データなし。

・ グリコール系溶剤

《急性毒性》  
経口：得られたラットLD50値(1.56,16.6,20.8g/kg bw)(PATTY 5th(2001))が全て区分外に該当している。  
経皮：ウサギのLD50値：13300mg/kg bw(DFGOT vol.10 1998)に基づき「区分外」とした  
吸入(ガス)：GHS定義による液体である。  
吸入(蒸気)データなし  
吸入(粉じん・ミスト)：ミスト：ラットに4500mg/m3(ミスト)を4時間暴露により死亡例はなかった。  
(DFGOT(vol.10,1998))が、このデータのみでは分類できない。

《皮膚腐食性/刺激性》  
ウサギを用いた皮膚刺激性試験(Draize test)の結果は軽度の刺激性の(slightly irritating)であり  
(IUCLID(2000))、ヒトに48時間適用、あるいはモルモットに反復適用してのなお刺激性なしの結果が得ら  
れている(DFGOT vol.10(1998))。JISの分類基準により「区分外」とした(国連GHSでは区分3に相当)。

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》  
ウサギを用いた実験で、地毛規制が認められていない(DFGOT vol.10(1998)、PATTY(5th、2001))ことから  
「区分外」とした。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》  
呼吸器感作性：データなし  
皮膚感作性モルモットの皮膚感作性実験(Maximization test)(DFGOT vol.10(1998))、およびヒトのパッチテス  
ト(IUCLID(2001))における感作性なし(no evidence of sensitizing effects)の結果に基づき「区分外」とした。

《発がん性》  
ラットに2年間の経口暴露により、生存率の低下と共に膀胱腫瘍があるいは腎臓腫瘍の発生が報告され  
ている(DFGOT vol.10(1998))。しかしながら、膀胱腫瘍については雄のみの試験であり、データも古い。腎  
臓腫瘍については同一著者がその後行ったイニシエーション/プロモーション試験の結果により、ジエチレ  
ングリコールには発がん性もプロモーション作用もないことが示された(DFGOT vol.10(1998))。その他の試  
験についても結論付けるのに十分なデータが見あたらず「分類できない」とした。

《生殖細胞変異原性》  
ハムスターを用いたin vivo染色体異常試験において、腹腔内投与で染色体異常(ギャップ)のわずかな増加、  
経口投与では曖昧な結果であったと報告されている。(DFGOT vol.10(1998))。その他には小核試験と優  
性致死試験の記述もあるが、動物種、投与往訪、投与期間などの基本的な情報を欠き、試験データとし  
て不寿運で遺伝毒性の評価には使用できないとも記述されている(DFGOT vol.10(1998)IUCLID(2000))の  
で、分類の根拠としても疑義があり「分類できない」とした。なお、in vitroの変異原性試験は概ね陰性結  
果がられている(DFGOT vol.10(1998)、NTPDB(Access on Jun.2008)、IUCLID(2000))。

《生殖毒性》  
マウスを用いて交配前からの暴露による2世帯生殖試験において、同腹児数の減少に加え、脳ヘルニ  
ア、口蓋裂の頭蓋顔面奇形が観察された(DFGOT vol.10(1998))。口蓋裂はハムスターの妊娠8日目の腹  
腔内投与でも報告されている(DFGOT vol.10(1998))。これらの影響が現れた用量では同時に母動物の  
体重減少、ハムスターでは死亡がみられ(DFGOT vol.10(1998))、即ち、親動物での一般毒性が発現する容量  
で明確な生殖毒性が記述されていることから「区分2」とした。

《特定標的臓器毒性(単回暴露)》  
急性毒性の症状は動物種間で類似しているとして症状が具体的に記述されている(DFGOT  
vol.10(1998)、PATTY(5th、2001))が暴露量との関係について記載がなく分類できない。

整理番号	トイレクリナー 800ml×12/CS	作成日	2007年1月22日
3399-02	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年2月13日

Ver. 11.08

《特定標的臓器毒性(反復暴露)》

ラットの反復経口暴露による特徴的な所見として尿酸の排泄増加とともに尿中に尿酸カルシウム血漿が形成され、腎障害(ネフローゼ)が未ラテ太とほうこくされている(DFGOT vol.10(1998))。暴露が長期に及ぶと膀胱結石も観察され、また腎臓に比べ軽度ながら肝障害も記述の一部にある(PATTY(5th, 2001))。しかし、これらの影響はいずれもガイダンス値範囲のカットオフ値(100mg/kg/day)を超えたかなり高用量における所見である。一方、ヒトでは本物質の暴露に関して複数の疫学調査が実施され、それらの結果によれば、多数の死亡例、進行性の腎障害と最終的に腎不全、一部の報告では肝障害が報告されている(DFGOT vol.10(1998))。以上、ラットの反復暴露の所見を考慮に入れ、ヒトの疫学調査の結果に基づき「区分1」(腎臓、肝臓)とした。

《吸引力呼吸器有害性》

データなし

・ 増粘剤

《急性毒性》

経口:LD50 5000mg/kg以上(ラット、経口)

《皮膚腐食性/刺激性》

皮膚刺激性、目粘膜刺激性ともに認められない。(ウサギ)

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性:

皮膚感作性アレルギーは認められない。(モルモット、皮膚)

《発がん性》

NTP、IARCの癌原物質として分類されていない。

《生殖毒性》

一日に500mg/kg以下で3世代変化を認めず。(ラット)

・ 転剤

《急性毒性》

経口:マウス LD50 20mL/kg以上

経皮:マウス LD50 20mL/kg以上

吸入(ガス):マウス LD50 20mL/kg以上

吸入(蒸気)マウス LD50 20mL/kg以上

吸入(粉じん・ミスト):マウス LD50 20mL/kg以上

《皮膚腐食性/刺激性》

情報なし

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

情報なし

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性:情報なし

皮膚感作性情報なし

《発がん性》

情報なし

《生殖細胞変異原性》

Salmonella typhimurium TA100、TA1535、TA98、TA1537及びWP2 uvrAに対して陰性である

《生殖毒性》

情報なし

《特定標的臓器毒性(単回暴露)》

情報なし

《特定標的臓器毒性(反復暴露)》

情報なし

《吸引力呼吸器有害性》

40°Cでの動粘度が20.5 mm<sup>2</sup>/sを超えているため区分外とした

整理番号	トイクリナー 800ml×12/CS	作成日	2007年1月22日
3399-02	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年2月13日

Ver. 11.08

## 1 2. 環境影響情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

### ・ 塩化水素

《水生環境有害性》(急性)

塩化水素の甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50=0.492mg/L(SIDS(2002))の情報より、水生環境有害性(急性)を区分1とした。

《水性環境有害性》(慢性)

水溶液が強酸となることが毒性の要因と考えられるが、環境水中では緩衝作用により毒性影響が緩和される。また、塩化水素のlogPow=0.25より、区分外とした。

### ・ 非イオン系界面活性剤

《生態毒性》 EC50 10~100mg/L (甲殻類オオミジンコ、48h) [参考値]

EC50 10~100mg/L (藻類緑藻、72h) [参考値]

《残留性/分解性》生分解性良好。

除去率 ≥90% ビスマス活性化物質 (修正OECD 301 A) [参考値]

除去率 >60% 理論値によるCO2発生量 (28日)

(OECDテストガイドライン301B、ISO 9439、92/69/EEC、C. 4-C) [参考]

《生体蓄積性》 データなし。

《土壌中の移動度》 データなし。

その他のデータ: [製品0.1%水溶液] BOD 750mg/L、COD 560mg/L、n-ヘキサン抽出物 390mg/L

### ・ グリコール系溶剤

《水生環境有害性》(急性)

魚類(ファットヘッドミノー)の96時間LC50=75200mg/L(AQUIRE、2008)より「区分外」とした。

《水性環境有害性》(慢性)

水溶性である(水溶解度: 1,000,999mg/L(SRC,2005))、急性毒性が区分外であることから、区分外とした。

### ・ 増粘剤

《水生環境有害性》(急性)

LC50 490mg/L(ニジマス、96時間) LC50 500000ppm以上(アミエビ、96時間) EC50 980mg/L(ミジンコ、48時間)

《水性環境有害性》(慢性)

生分解性である

### ・ トレート剤

《水生環境有害性》(急性)

魚類(ヒメダカ)24hr, LC50 1700mg/L

48hr, LC50 1500mg/L

96hr, LC50 1500mg/L

《水性環境有害性》(慢性)

情報なし

オゾン層への有害性 : データなし

## 1 3. 廃棄上の注意

- ・ 内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

整理番号	トイレクリナー 800ml×12/CS	作成日	2007年1月22日
3399-02	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年2月13日

Ver. 11.08

#### 14. 輸送上の注意

国際規制：

国連分類

クラス8 腐食性物質

国連番号

1789 塩酸

容器等級： II

海洋汚染物質： 該当

国内規制：

容器イエローラベル

157 毒性物質及び/又は腐食性物質（不燃性/水反応性）

#### 輸送の特定の安全対策及び条件

- ・ 容器の破損、漏れがないことをたしかめる。
- ・ 荷くずれ防止を確実に行う。
- ・ 該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。
- ・ 直射日光を避ける。
- ・ 水漏れ厳禁。
- ・ 横積み厳禁。
- ・ 夏場の輸送時においては、熱い鉄板、地面等の上に直接置かないこと。
- ・ 輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。転倒したり、激突させたりしない。

#### 15. 適用法令

火薬類取締法：

対象外

高圧ガス保安法：

対象外

消防法：（ ）内は、指定数量

非危険物（消防法上の非危険物）

不燃物である

毒物及び劇物取締法（毒劇物取締法）：

該当物質は含むが規定量以下のため非該当。（詳細は 3. 組成、成分情報を参照）

労働安全衛生法：

通知対象物質を含有する。（詳細は 3. 組成、成分情報を参照）

労働安全衛生法（有機溶剤中毒予防規則）：

非該当 該当成分を含有しない。（詳細は 3. 組成、成分情報を参照）

労働安全衛生法（危険物）：

非該当

特定化学物質障害予防規則： 該当

特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法（PRTR法）：

非該当 該当物質は含有しない。（詳細は 3. 組成、成分情報を参照）

整理番号	トイレクリーナー 800ml×12/CS	作成日	2007年1月22日
3399-02	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年2月13日

Ver. 11.08

## 16. その他の情報（参考文献等）

GHSに基づく化学物質等の分類方法 JIS Z7252:2009

GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)  
JIS Z7253:2012

GHS分類結果データベース（独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ）

中央労働災害防止協会安全衛生情報センターホームページ

JACA（日本オートケミカル工業会）編集：化学物質管理データベース

オートケミカル製品のための製品安全データシート作成指針改訂版（日本オートケミカル工業会）

危険物船舶運送及び貯蔵規則（海文堂）

---

### ※注意

安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。